今、私たちはどんな時代に、どこで暮らしているのか

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　2019/8/24・男鹿

1. はじめに

―個人の自由を求めて、居場所を失った私たち

―人間は個人になればなるほどシステムに従属していくという問題

―他方ですすむ近代以降のシステムの瓦解

1. いま私たちは何を回復させようとしているのか

―居場所の再創造

―居場所は関係性のなかにあることの再認識

―自然との関係性、人々との関係性、地域・文化・土着的な信仰などとの関係性

　＊宗教、信仰という言葉は明治になって翻訳語として生まれたものであり、それ

までは暮らしや労働、地域などのなかに埋め込まれた願い、思い、祈りだった

1. 神に帰属した社会、自然に帰属した社会

―神が生みだしたシステムに帰属しようとした社会からは、近代以降になると

システムに従属する社会を生んだ・・システムに従属する個人

―自然に帰属する社会は、結びあうものに帰属する社会を生む・・自然という結び

合う世界、自然とともに生きるという結び合う世界、人々の結び合う世界

―結び合う世界としての風土・・関係する世界に包まれている＝風土に包まれてい

　る

1. 東洋思想から学びなおす

―結び合う世界、関係性が本質であり、みえている世界は本質から生まれた現象に

過ぎないと断じた大乗仏教の思想・・本質は関係だから空(とらえられない)

―「おのずから」な関係＝真理の世界＝悟りの世界＝菩薩の世界

1. まとめに代えて

―自己実現の世界から、関係のなかの役割をこなす世界へ

―個人の時代から関係の時代へ